

ほ 多 省

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～
【今月の一冊】 稼ぐ言葉の法則
神田昌典 著 ダイヤモンド社
ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2017年5月1日 Vol. 175
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
ライフコンサルタント 渡邊敏徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

2025年問題

日本の人口はこれから10年間で700万人減ります。15歳～64歳の生産年齢人口が7000万人まで落ち込む一方で、65歳以上の人口は3500万人を突破します。

2025年の日本は、団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、人類が経験したことのない超・超高齢社会を迎え、これが『2025年問題』と言われるものです。

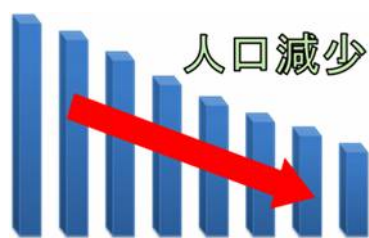
東京オリンピックが終わったあと、日本の姿は、今とは大きく変わることが予想されます。現在と同水準の人口を維持できるのは、東京・神奈川・千葉・埼玉の首都圏と、愛知・沖縄・滋賀のみで、青森・岩手・秋田・山形・福島の前北各県や、中四国の大半の県は、軒並み1割人口が減っていきます。

若者がどんどん減り、老人が増える。何かを作る仕事に携わる人が減り、介護や葬儀に携わる人が激増する。また、現時点で軽度のもを含めれば、少なくとも820万人が認知症を患っているという厚生労働省のデータがあります。それに基づけば、2025年には今の1.5倍、1200万人以上が認知症になっていてもおかしくありません。国民の10人に1人が認知症・・・？そんな国が成り立っていくのだろうか。

厚生労働省の推計によれば、2025年の医療保険給付は総額54兆円と、現在より12兆円以上増える見通しです。これからの日本の国力で、とうてい賄える額ではありません。9年後、全国の入院患者数は138万人(1日あたり)を超えます。しかし、全国の病床数は今でさえそれに足りない134万床で、今後さらに減らされる見通しです。確実に、数万から数十万人の病人が、病氣にかかっても入院できなくなります。

年金をはじめとする社会保障費は、現在の約120兆円から、2025年には総額150兆円に増えると考えられます。おそらく、年金の実質的破綻は誰の目にも明らかになっているでしょうから、『70歳への支給開始年齢引き上げ』の可能性も大いにあります。

まだまだ先ではなく、すぐそこに差し迫っていることを考えると、自助努力でできることには限界があるかも知れませんが、少しずつでも何かをしなければと考えるのは私だけでしょうか・・・。



コト消費

時代は、商品を買う・所有する「モノ消費」から体験する・思い出をつくる「コト消費」へ、そんな言葉をニュースや新聞で多く見かけるようになりました。

JR東日本企画が行った「普段の生活に関する定性調査及び定量調査」によると「家にモノが溢れていてこれ以上持ち物を増やしたくない」という質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人は全体の52.1%にのぼりました。

かつて「三種の神器(冷蔵庫、洗濯機、白黒テレビ)」や「3C(カラーテレビ・クーラー・自動車)」のような商品は人々の生活を豊かにするものとして選ばれた時代は終わり、日本は消費の成熟化が進んでいます。現在ではそのような必需品はほとんどの人に行き渡っています。

コト消費の代表例はインバウンド消費や観光ですが、訪日観光客が、家電や生活雑貨のようなモノではなく、温泉巡りや着物体験などのコトを楽しむリピーター客の増加があります。

観光庁の『訪日外国人消費動向調査』によると、2016年10～12月期の訪日観光客のうち、初めて日本に来るという人は38.4%であり、2回以上来ているという人は61.6%にのぼりました。訪日観光客の多くが次回訪日した際に実施したい行動として「四季の体感」や「自然体験ツアー・農漁村体験」といった体験を挙げています。ホテルなどの宿泊数や民泊といった問題点がありますが、物的な豊かさから、さらに充実した生活のために精神的な豊かさを求める消費者感情が、これからの日本経済のキーワードになりそうですね。



【座右の銘にしたい名言】



変革せよ。変革を迫られる前に。～ Change before you have to. ～

(ジャック・ウェルチ/米国の実業家)